

資料編

- 資料1 協力校リスト 日本看護系大学協議会加盟校のなかの51校
- 資料2 カリキュラム評価の枠組みとして使用することに関する意見
- 資料3 日本看護系大学協議会会員校からの評価意見
- 資料4 看護管理者からの評価意見
- 資料5 9月9日案
【学士課程においてコアとなる看護実践能力を基盤とする教育
—看護実践能力・卒業時到達目標・教育内容・学習成果—】
- 資料6 札幌市立大学の客観的臨床評価の取り組み
- 資料7 京都府立医科大学医学部看護学科の客観的臨床評価の取り組み
- 資料8 オレゴン看護教育連盟「コンピテンシー評価と参照基準」

資料1 協力校リスト 日本看護系大学協議会加盟校のなかの51校

コアカリキュラム検討会 参加希望校 51校 51名参加

	学校名
1	愛知医科大学看護学部
2	愛知県立大学看護学部
3	茨城キリスト教大学看護学部
4	岩手県立大学看護学部
5	愛媛県立医療技術大学
6	大分大学医学部看護学科
7	大阪府立大学
8	沖縄県立看護大学
9	金沢大学保健医薬研究域保健学系
10	関西看護医療大学
11	吉備国際大学
12	京都橘大学看護学部
13	桐生大学
14	近代姫路大学
15	熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座
16	久留米大学医学部看護学科
17	群馬大学医学部保健学科看護学専攻
18	群馬パース大学
19	慶応義塾大学
20	神戸市看護大学
21	国際医療福祉大学小田原保健医療学部
22	産業医科大学産業保健学部
23	四国大学看護学部
24	自治医科大学看護学部
25	島根大学医学部看護学科
26	順天堂大学医療看護学部・医療看護学部研究科

	学校名
27	昭和大学保健医療学部看護学科
28	聖隷クリストファー大学看護学部
29	東海大学健康科学部看護学科
30	東京慈恵会医科大学医学部看護学科
31	鳥取大学医学部保健学科
32	富山大学医学部看護学科成人看護学
33	長崎県立大学看護栄養学部看護学科
34	長野県看護大学
35	名寄市立大学保健福祉学部看護学科
36	日本赤十字看護大学
37	日本赤十字豊田看護大学
38	日本赤十字広島看護大学
39	兵庫大学
40	福井大学医学部看護学科
41	福岡大学医学部看護学科
42	宮城大学看護学部
43	宮崎大学看護学部
44	山形大学医学部看護学科
45	山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科
46	山口大学大学院医学系研究科保健学系学域
47	山口県立大学看護栄養学部看護学科
48	山梨大学
49	山梨県立大学看護学部
50	横浜市立大学医学部看護学科
51	琉球大学医学部保健学科

資料2 カリキュラム評価の枠組みとして活用することに関する意見

平成21年度日本看護系大学協議会 看護学教育評価機関検討委員会からのデータ提供

問：コア・カリキュラムとの連動や大学独自の教育カリキュラムを構成することを評価に取り入れることについてご意見をお聞かせください。

代表的な意見

- ・ 本学では、展開看護学（1～4年次）という多科目の習熟度にあわせた科目編成や、1年次から看護体験自習を行い、臨床現場のイメージ形成を支援し、専門職としての倫理観の形成に早い段階からすることで効果を上げている。
- ・ どちらも重要であり、各大学において、設置主体・地域貢献、求められているニーズが異なっており、独自性を持った教育の実践とその評価が必要と考えます。
- ・ 大変良いと思います。大学の独自性を育てることは、看護の多様な社会的役割を担える人材の育成に通じるものと考えます。
- ・ 方針としては評価できる。
- ・ 教育の質の保証の観点からコア・カリキュラムは重要であるが、大学の独自性とは相反することにもなりうる。両者を評価することが必要であると思われる。
- ・ 大学の独自性を評価できるため大変良いと考えます。
- ・ カリキュラムは、専門職教育の中核をなすものであり、取り入れることに賛成である。機能別評価では、学士課程としての評価が中心になり、詳細までの振り返りには限界がある。
- ・ コア・カリキュラムの連動については良くわからないが、大学独自のカリキュラムを構成することを評価に取り入れることは必要なことだと思う。
- ・ 地域特性等を踏まえた教育を実施する機会ともなり、将来的には本県の看護師のケアの質の向上につながっていくと思うので、是非評価に取り入れていって欲しいと思う。
- ・ その導入は大学の独自性や教育の多様化に伴い好ましいと考えます。同時に大学個々の評価は対外的にも相互評価できるものとなり、必然的に教育の質の向上に貢献する評価成果が得られると期待します。
- ・ コア・カリキュラムは自校カリキュラム構成に十分役立ちますし、自校カリキュラム構成に評価は欠かせない。協議会が標記の2点をあえてねらいとして評価に取り入れる意図が見えません。
- ・ コア・カリキュラムの連動を取り入れることは、教育課程および教育活動における看護学分野の特徴をより明確に示す評価基準となると考える。
- ・ 大学独自のカリキュラムと指定規則との関連性、およびコア・カリキュラムを採用すること（検討すること）について、まだ十分に整理ができていません。
- ・ 5群21項目のコア・カリキュラムを組み込んだ教育課程とそれ以外の内容で独自性を組み込むことの難しさが考えられます。
- ・ カリキュラムのユニークさを出すことも大切ですが、基礎教育の質が担保されていることの評価も重要であるため、コア・カリキュラムと大学独自のカリキュラムの両方を評価することは大切であると

考えます。

- ・理想的であるが、現状としては時間を要し、困難な点も考えられる。
- ・大学独自の教育カリキュラムを構成することに現在力を入れていますので、それがコア・カリキュラムとどのように連動しているのか、構造で示せるようになるとういのではないのでしょうか。
- ・基本的には賛成。しかし、書面上で「コア・カリキュラム案」を見ている分には、特別な違和感はなく納得できるが、実際のカリキュラムと照合させたときに、そのことが有効な評価に役立つことなのか、なにか混乱をもたらすのか、まだわからない。
- ・コアカリキュラムは、全国の看護学学士課程教育の水準を保証するため（社会的に説明するため）に作成されたものですので、自大学の教育カリキュラムはコア・カリキュラムをどのように活用し、どのように連動させているのかを説明することが求められるのではないかと思います。
- ・指定規則に縛られている現行のカリキュラムの中でもいかにその大学の独自性を出しているかは大きい評価されるべきものであると考えます。
- ・コア・カリキュラムとの連動や大学独自の教育カリキュラムを構成することを評価に取り入れることは、重要でカリキュラム評価においては必要不可欠と考える。
- ・コア・カリキュラムとの連動は必要であると考えます。ただ、コア・カリキュラムで規定される教育内容の量と質によっては、大学の教育理念に沿った看護学教育の独自性をどの程度、教育課程に盛り込むことが可能かについて具体的に考えることが困難です。大学の独自性は必要であると考えていますが、評価としてどの程度重視すればよいか難しいと思います。
- ・大学教育での看護基礎の水準を維持・改善していくためにはコアカリが必要であると思いますが、評価基準として取り入れていくには、会員校がコアカリを踏まえてカリキュラム構成していくことについてどれくらい認知、承認できているかが気になります。
- ・コア・カリキュラムが全国的に採択されているわけではないので、使用開始時期について検討の余地があると思われます。
- ・コア・カリキュラムが、大学評価に用いられるほど、一般国民の支持を得ているのか、疑問に思いました。独自のカリキュラムには、その内容に対応した教員が確保されているかどうかの評価も必要ではないかと思いました。
- ・2つの評価を同時に取り入れることで、全体的な看護教育の質を保持することと、各大学独自の教育に対する取り組みを鼓舞することに繋がるのではないかと考えました。数多くの看護学学士課程を有するわが国にとって、このような評価を行なうことで、常に教育課程の見直しと改善に努めていくことが、社会的義務であると改めて考えさせられました。
- ・看護においてもコア・カリキュラムは非常に重要であると考えます。同時に各大学の独自性をどう打ち出していくかを考える必要があるため、今回、コア・カリキュラムとの連動や大学独自の教育カリキュラムを構成が評価に入ることは、当然のことだと考える。
- ・教育内容はコア・カリキュラムに沿っていても、到達のための方法は大学による創意工夫が必要であるし、大学独自の理念・目的にかなった教育カリキュラムも必要である。それらは、当然評価に取り入れられるべきである。
- ・コア・カリキュラムと独自のカリキュラムを具体的にどのように連動させるかの検討を始めたばかりであるため、その評価をとり入れることについては判断しかねる。

- ・コア・カリキュラムはあくまでも最低限の質保障であり、大学独自のカリキュラムは大学の理念、G P（到達目標）にもとづいたものであるはずなので、2本立てで評価されることは重要と考える。
- ・大学の教育カリキュラムに包含されている（モデル）コア・カリキュラムを抽出して、教育課程を評価すると理解しています。
- ・看護系大学教育におけるコア・カリキュラムについては、学士課程教育を評価する上でとても重要であると考えます。またコア・カリキュラムを踏まえて各大学が独自の教育カリキュラムを構成することは当然のことですので、これらを実際に評価に取り入れることは必要だと考えます。
- ・大学独自の理念・目標に基づいて、教育カリキュラムは編成されるが、看護学教育の質を確保することを考えると、コア・カリキュラムと連動させた評価を同時に行なうことは自大学を評価する際、有用であると考えます。

資料 3

日本看護系大学協議会会員校からの評価意見

参加校 121 校（無効回答 4 校）

全体に対する意見

☆看護学のコア・カリキュラムを作成する場合は、随時改訂がなされることが必要であり、そのようなシステムを構築することが必要である

☆基本的には、各々の大学における独自性を活かせることが大切であると考えています。細かくしすぎることの危険性と、そうしなければ安心できない私たちの習性を感じます。

☆学士課程の教育内容が具体的であり、大学による教育内容の相違がなくなると思います。ただ、大学の独自性や特徴を生かした教育をどう関連させるかが課題として残ります。

☆全体的に見て適切な内容だと思います。内容のウェイトにおいては、各大学の独自性でいいと思います。

大学教育において、これらの内容を提示することは看護学教育を行っている大学だけでなく他の学問領域にアピールできるものと思います。

☆項目ごとに拝見してすべての内容も含めてこれで結構かと存じます。教育内容としては些か高い標準、過密な印象ではあります。

☆具体的に学習成果が示されており、評価しやすいと考えます。

★コアとなるのはここに掲げてある「看護実践能力」であり教育の内容は“例示”に過ぎないと思います。そうでないと各大学の工夫が困難となります。

★実践に関して「現実に体験が難しい部分」「実習の受け入れが困難」を理由にレベルを下げることは早計と思われる。各大学の教育理念や目標に照らして表現は変えればよいのだと思います。

20の看護実践能力について

20の看護実践能力の適切性について	
大変よい	25校
よい	84校
どちらともいえない	5校
よくない	1校
非常によくない	1校

☆看護学士課程で育成するコアとなる看護実践能力として各領域で学ぶべき内容は網羅されており、この内容で今後も教育がなされていくことが適切ではないかと考える。

☆看護実践能力についての議論が絶えない中でコアとなる項目群を挙げ看護基礎教育における育成の目指すべき方向性が記述されている。これらが単なる技術項目のできる・できないといった行動目標的な捉えを超えて、共通概念として共有できることが望ましいと考える。

☆必要な能力として基礎から応用まで網羅されていると思います。

☆コアの看護実践能力を明らかにされていると思います。

☆本調査に初めて参加しますが、学士課程における看護実践能力の方向性が網羅されており「よい」と考えます。

★「どちらでもない」「よくない」「非常に良くない」と答えた大学の4校の意見は、「8 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力」「10 健康の保持増進と疾病を予防する能力」「14 保健医療福祉における看護機能と看護ケアを改善する能力」「15 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力」は保健師の専門能力に関わることであり、看護師国家試験受験資格のみを得るレベルでの能力として不要であるとの意見であった(4校)。

卒業時到達目標について

卒業時到達目標の適切性について	
大変よい	20校
よい	77校
どちらともいえない	15校
よくない	4校
非常に良くない	0校

☆卒業時の到達目標として挙がっていることで評価しやすい内容となっていると思われる。また「理解できる」「説明できる」「指導のもとで実施する」という表現を使うことでより具体的な到達目標になっていると思われる。

☆前回のものに修正が加わった結果、到達度として適切なものになったと思います。

☆8) 看護師・保健師・助産師として活動する場合、学校や職場の保健課題は不可欠な知識と思い、すべてに共通する能力のなかに項目立てがほしいと思っています。ただ、全体的に見て、その位置づけが難しいのなら調査票に既述したように卒業時の到達目標にもう少し明確な表現がほしいと思います。

☆助産師教育の基盤となる母子保健分野は薄いように思われる。

★「どちらともいえない」「よくない」「非常に良くない」と答えた大学に意見としては、

①看護の実能能力として考えたとき、「卒業時の到達目標」で「～できる」が少ないように思います。到達目標によっては「実施できる」「指導のもとで実施できる」を強化していくことが必要である、もう少し目標を上げることが必要である。(9校)

② 「8 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力」「10 健康の保持増進と疾病を予防する能力」「14 保健医療福祉における看護機能と看護ケアを改善する能力」・「15 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力」は、理解のレベルにとどめるべきである(9校)。

③「理解できる」という表現は曖昧であり、説明できるなど、評価可能なものとする必要がある(9校)。

教育内容

教育内容の適切性について	
大変よい	19校
よい	83校
どちらともいえない	12校
よくない	1校
非常によくない	1校

☆大学教育において必要な内容だと思います。項目が多い気はしますが卒業教育につなげていくレベルでされているためこれらの内容については入れておくべきかと思います。

☆各大学の理念と責任によって変更するものである。

☆削除・追加を行ったことでより精選された教育内容となっていると思う。

★「どちらともいえない」「よくない」「非常に良くない」と答えた大学に意見としては、一部困難なものが含まれている。一方では一部不足しているので補強することが必要であるとの意見もみられた。

学習成果

学習成果の適切性について	
大変よい	42校
よい	58校
どちらともいえない	13校
よくない	3校
非常によくない	0校

☆学生が主体的に学習する姿勢を教育者としては描くことができるためにも「期待される学習成果」が追加されたことは大変よいと考える。また「期待する学習成果」についてやや項目としても多くなってしまうとは思うが、どれも適切であり、特に適切でないと思うものは見られないと考える。

☆学生にも提示することによって主体的に行動できると考えられるため、設定したことは大変よいと思います。

☆目標設定が具体的であったため、授業（科目）でのゴールがイメージしやすいと思います。

☆より具体的になり、教員が何を教授すればよいのかが分かるのみならず、学生も何を学ばよいか明確になる。・わかりやすくなったと思う。

★「理解している」は判断基準として使えない。全体的に“理解”のレベルが多いと思います。“理解”をどのようにとらえるかの問題もありますが…

★「卒業時の到達目標」と「学習成果」とのレベルに整合性がない。「期待する学習成果」の方が全体

的に認知領域レベルとなり、低いように思われます。

- ★8) 10) 14) 15) は保健師教育に特化しており看護の基礎としては「理解できる」のレベルが適切と考えます。
- ★「教育の内容」と「期待される学習成果」を別に置く必要性が不明確である。
- ★「理解する」「説明する」だけでは看護実践に結び付かないので、到達目標によっては「指導の下で実施する」が必要であろう。
- ★項目はもう少しまとめた方がよい。または内容と対応させるかどちらかにしたほうがよい。

資料4 看護管理者からの評価意見

1) 対象：

国立大学附属病院	看護部長 3名、副看護部長 2名
私立大学附属病院	看護部長 1名
県立病院	看護部長 2名
私立病院	看護部長 2名、副看護部長 1

2) 質問内容

- ◆20 看護実践能力について
- ◆卒業時の到達目標について
- ◆期待する学習成果と実践との関連について
- ◆大学卒業時の「学習成果」として、臨床側からみての妥当性について
- ◆看護実践能力を育てるために臨床と大学の連携について

3) 看護管理者からの意見

◆看護実践能力についてのコメント

- *必要な教育内容を網羅しており、大切なことがこのように教えられているということに感心した。
- *新人教育にどのように活用するかが課題ではあるが、この枠組みを活用することは可能であり、教育と臨床とのつなぎとなると思う。
- *大学が看護として、学問としてこういう基盤の上で看護を行うということを示していると思う。
- *基礎的素養を持って卒業してもらえたら、あとは卒後教育だと思っております。専門職としての看護の能力は卒業時にスタート地点に立ち、経験を積むことによって培っていくものだと思いますので、基礎的な素養を教育して頂ければ十分ではないでしょうか。

◆目標・学習成果についてのコメント

- *「指導のもとに、実践できる」は少なく、「説明できる」となっているが、学習成果は基礎教育であれば、この記載されているレベルでよいと思う。すぐに「できる」ことを臨床はあまり期待していない。臨床側はちゃんと理解しているということを明確にしてくれれば、そのことがありがたい。
- *学習成果は、現状でも高すぎるくらい。
- *大学ではしっかり理解すること、それを具体化・行動化するのが卒後臨床研修なので、教育レベルで「できる」レベルにしてしまうと、かえってマニュアル人間作成の危険性がある。
- *新人の研修でも1年かけて「できる」とする項目もある。卒業した直後は「できる」は求めている。
- *「Ⅱ根拠に基づき看護を計画的に展開する実践能力」のところ、卒業時の到達目標にしっかり到達して臨床にきて頂ければ、そのまま卒後の能力開発につながると思います。

◆看護技術についてのコメント

- *学習成果は、現状でも高すぎるくらい。

- *看護技術に関しても同様に基本を押さえてあれば、そこから先は卒後教育だと思っていますので、十分な項目が挙がっていると思います。しかし、これらの項目のなかには4年間では、指導を受けながらも経験できないものもあるように思います。
- *看護技術に相当するところですが、たとえば、「救命救急処置の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる」などは、モデル等では可能でしょうが、実際に臨床では経験できないであろうと思います。
- *与薬のところでも、実際に患者さんに卒業時まで実施できることは一部の学生ができるかもしれませんが、なかなか難しいのが現状だと思います。

◆実習についてのコメント

- *本当はやらせてあげたいのですが・・・。
- *医療に対する国民の目が厳しくなり、学生が実習するうえで昔のように協力をえることが難しくなっている。そのなかで、基礎教育の実習で少しでも直接経験を体験できるような実習体制をつくっていくことが必要だと思います。
- *実習に来るのは、患者さんに目を向ける、看護師の動きを見る、そういう現場を見るため。今の学生は自分の計画、患者の計画が大事で患者さんのところに行かない。興味を持って現場を見る、実習が楽しかったという体験も必要。
- *実習では一人の患者さんを受け持って、看護を展開することを5－6回繰り返している。その方法は、もったいないような気がする。
- *何もできなくてもいいから、看護師の後について行って、急変が起こっている場に立ち会うと、学内演習よりも臨場感がある。
- *クリティカルな技術の取得というものではなく、20の看護実践能力に結びつくもの。技術の習得だけではない、現場に入り込む、看護師と一緒に考え、見せる実習形式ができないのだろうか。
- *一人の患者の看護過程の展開も大切ですが、受け持ち患者以外の患者のケアや他の治療に対する看護に触れることも必要だと思います。
- *トータルに現場の問題を見られることは大事
- *看護の質の管理能力が大学の基礎教育に位置づく意義について、もう少し現場と、教育のことを知っている、両方を繋ぐことができる人が必要。実習指導にかかわる教員が臨床と教育側の通訳ができることが必要。

◆総合実習について

- *統合実習が始まると聞いていますので、臨地実習をもっと有意義に活用して頂ければと思います。
- *総合実習など現場でとらえてきたものを、20の実践能力のうちのどれを学んできたのかなどと振り返りながら実習できるといい学習になると思う。

◆新人看護師を育てることについてのコメント

- *実践には限界がある。置いてある場所、一緒にする人、物が違うし、時間的制約もある。基本は学んでいても、現場に入るとできない。それでショックを受ける。新卒者はできなくても当たり前だと思う。そこをどう繋げていくかというのは、私たちの課題でもあり、難しい。

- * 私たち、臨床が大学で教えたことを引き継いでいけるようにすることが大切であると思った。
- * 現場もいろいろな状況の中で変わろうとしているがなかなか難しい。
- * 新人看護師が大学の教育を終えてやってくるということに期待をしている。新しい考えを持っている人たちが入ってくることによって、現場からも変わり、入ってくる人もいい方向に変わってくる
- * 卒業時の目標や学習成果について、教育側と臨床側が共通した意識を持つことが重要だと思います。新人教育との連動を考えていくことがもとめられている。
- * 臨床研修制度で9) をするにあたって、その背景にアセスメントできる、エビデンスを説明できる能力は必要で、それを含めて「できる」と評価している。その背後にある20の看護実践能力を私たちも知っていて、それらができているかなとみていけるといい。こういう基盤的なものから臨地実習のあり方について、臨床研修制度にもつながるような「こういった能力が養えるような実習を」と現場に言って頂いたらよい。

◆学内演習の充実

- * シミュレーションは教室だからできる。安全、時間がかかってもいいという状況。しかし、学内演習でどれだけやっても、現場では別である。
- * 臨床現場での学生の知識の活用に関しては、臨床に任せきりになるのではなく、教員にリーダーシップをとってほしい。教育内容と実践を関連付ける為に、教員が実習に責任を持ってほしい。
- * 多重課題への対応力に関して

◆臨床と教育の協働について

- * このような到達目標や学習成果を示すことによって、“全部やっている”“実施できる”と思われてしまうことは危険です。こちらも期待してしまうから。教育サイドも臨床サイドも、「教育はこれらの20の実践能力を、卒業時の目標を到達することを目指して、看護師を養成していること」を理解することが重要だと思います。双方が、全部は無理だと理解していることが必要だと思う。
- * 臨床側は学生が受けている教育内容をもっと知る必要があります。多くの看護師は自身が受けた教育がすべてですので、そのレベルで学生あるいは新人を見る傾向があります。
- * 臨床看護師が、可能な限り教育に参加すること、基礎技術演習に参加することがもとめられているように思います。制度として確立していませんので、そのあたりをもっとシステムティックにする必要があろうかと思えます。
- * 学校側においては、臨床の日進月歩に触れて頂きたいと思えます。感染対策、薬剤の適用、新しい治療に伴う看護、新しい器具等、日々変化しています。臨床が知らない新しい知見は是非教えて頂きたいですが、教員も積極的に臨床の場に出て頂きたいと思えます。特に臨床経験が少なくて助教になられた方などは、臨床で看護師として少し実践されるのもいいのではないのでしょうか。
- * 大学で行われる教育に実習として臨床が協力するのだが、その際に実際の看護師と共に看護を提供する機会を通して、内容だけではなく、その看護師のあり方、実施の仕方、看護への姿勢などを見てもらい、そこから学んでもらえたら良いと思っている。
- * 教員の皆様には、指導者・ナースとともに実践を行うことの大切を熟知してほしい。
- * 看護実践能力を育てるために臨床と大学がお互いに協力していくことについて、臨床側の弱い所（看

護過程の展開方法・ケアの優先順位の決定など)を教員の知恵を用いて現場に刺激を与えてくれるとよいのではないか。

*実習に来る教員を通して現場が高まっていくような関係性になるとよいと思う。そうすれば実習生、新人看護師の受け入れもよくなる。

◆大切にしたいことについて

*どうしてそうするのかという思考、意味のあることや基本を押さえる理解の仕方、evidence を考える癖、こういった根っこの部分を植えてくれたら、技術に関しては現場でもやっていける。そういう思考する、根拠を求める癖をつけていると、3年から5年の経験を積むと違ってくる。

*思考は看護の展開の仕方を違える。看護ということを広く考える、患者さんに対する立ち位置も考えられる。

*細かいところまで教えていますと言わなくてもいい。基本が身につけていると応用力、思考力が身につくことを大切にしてほしい。

*大学生は個人、家族、集団、地域、世界と広い意味で看護を学んでほしい。病院でも地域や世界に出ていくような看護師を長い目で育ててほしい。

*卒業時点でできなくてもいいから、問われた時に学んできたことが説明できる能力、それが研鑽し続ける基本能力として備わっていて欲しい。

*「考える力」を大事にしてほしい。

*疑問があれば、文献にあたりたり、実践されていることが本当に正しいのか批判的に考えるといった姿勢を身につけて卒業して欲しいと思います。

資料 5

学士課程においてコアとなる看護実践能力を基盤とする教育

看護実践能力・卒業時到達目標・教育内容・学習成果

平成 22 年 9 月 9 日

看護実践能力		卒業時の到達目標	教育の内容	学習成果
群	能力			
I ヒューマンケアの基本に関する実践能力	1) 看護の対象の尊厳と権利を擁護する能力	<p>(1) 人間や健康を総合的に捉え説明できる。</p> <p>(2) 多様な価値観・信条や生活背景を持つ人を尊重する行動をとることができる。</p> <p>(3) 人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとることができる。</p>	<input type="checkbox"/> 人間の捉え方 <input type="checkbox"/> 健康の捉え方 <input type="checkbox"/> ライフサイクルと健康 <input type="checkbox"/> 社会と健康 <input type="checkbox"/> 文化と健康 <input type="checkbox"/> 基本的人権の尊重 <input type="checkbox"/> 看護実践に関わる倫理の原則 <input type="checkbox"/> 患者の権利 <input type="checkbox"/> 権利擁護 <input type="checkbox"/> プライバシーへの配慮 <input type="checkbox"/> 個人情報保護 <input type="checkbox"/> 看護職の倫理規定	<input type="checkbox"/> 看護の対象である人間について総合的に捉え説明できる。 <input type="checkbox"/> 人間のライフサイクルと発達について説明できる。 <input type="checkbox"/> 健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。 <input type="checkbox"/> 社会と健康、文化と健康の関連を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。 <input type="checkbox"/> 多様な価値観や人生観を有している看護の対象を尊重する行動をとることができる。 <input type="checkbox"/> 基本的人権の尊重、患者の権利及び権利擁護について説明できる。 <input type="checkbox"/> 患者の権利、プライバシーや情報の保護に配慮した看護の在り方を説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護職の倫理規定や看護実践に関わる倫理の原則を遵守することの必要性を説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象の権利を尊重し、その擁護に向けた行動をとることができる。
	2) 実施する看護について説明し同意を得る能力	<p>(1) 実施する看護の方法について、看護の対象に合わせた説明ができる。</p> <p>(2) 看護の実施にあたり、看護の対象の意思決定を支援することができる。</p>	<input type="checkbox"/> 医療における自己決定権 <input type="checkbox"/> 看護職の説明責任 <input type="checkbox"/> 意思決定への支援 <input type="checkbox"/> インフォームド・コンセント <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン	<input type="checkbox"/> 医療における自己決定権と看護職の説明責任について説明できる。 <input type="checkbox"/> インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 実施する治療や看護に関する選択権について説明できる。 <input type="checkbox"/> 実施する看護を説明する方法とその意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象が意思決定するために必要な情報を提供することができる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象の意思決定を指導のもとで支援することができる。 <input type="checkbox"/> 実施する看護について説明できる。

	<p>3) 援助関係を形成する能力</p>	<p>(1) 看護の対象と援助的なコミュニケーションを展開できる。</p> <p>(2) 看護の対象と援助関係を形成できる。</p> <p>(3) 看護の対象となる集団との協働的な関係の在り方について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 自己分析、自己理解</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーションの原則と技術</p> <p><input type="checkbox"/> 対人関係、相互作用</p> <p><input type="checkbox"/> 援助関係の過程</p> <p><input type="checkbox"/> カウンセリングの基本と技術</p> <p><input type="checkbox"/> 治療的コミュニケーション</p> <p><input type="checkbox"/> ケアリングの考え方</p> <p><input type="checkbox"/> 集団形成の過程</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ、メンバーシップ</p> <p><input type="checkbox"/> グループダイナミックス</p> <p><input type="checkbox"/> グループ支援</p>	<p><input type="checkbox"/> 自己を分析し自己理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 看護の対象と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> プロセスレコードなどを活用して、援助関係を分析できる。</p> <p><input type="checkbox"/> カウンセリングの基本的な方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 援助関係におけるケアリングの考え方について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 援助関係形成の過程を理解し、援助関係を形成できる。</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップ、メンバーシップの考え方について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 集団の構造と機能、グループダイナミックスについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> グループを形成する方法とそれを支援する方法について説明できる。</p>
--	------------------------------	--	---	---

看護実践能力		卒業時の到達目標	教育の内容	学習成果
群	能力			
Ⅱ 根拠に基づき看護を計画的に展開する実践能力	4) 根拠に基づいた看護を提供する能力	<p>(1) 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる。</p> <p>(2) 看護実践において、理論的知識や先行研究の成果を探索し活用できる。</p>	<input type="checkbox"/> エビデンス <input type="checkbox"/> エビデンスに基づいた実践の在り方 <input type="checkbox"/> 情報の収集・情報提供システムとその活用 <input type="checkbox"/> 文献の検索方法 <input type="checkbox"/> 文献の批判的検討 <input type="checkbox"/> 基本的な研究方法 <input type="checkbox"/> 基本的な統計的分析方法 <input type="checkbox"/> 研究成果の解釈と活用 <input type="checkbox"/> 基本的な疫学・保健統計の知識 <input type="checkbox"/> 看護理論、看護研究、看護実践の関係	<input type="checkbox"/> 根拠に基づいた看護を提供することの必要性を説明できる。 <input type="checkbox"/> 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、活用できる。 <input type="checkbox"/> 文献や研究成果を比較し、批判的に吟味することができる。 <input type="checkbox"/> 基本的な看護研究方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 健康現象を説明するために基本的な疫学や保健統計を活用できる。 <input type="checkbox"/> 主要な看護理論について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護を展開する際に、理論や概念を活用する意義と方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護に必要な根拠を探索し、看護実践に活用できる。
	5) 計画的に看護を展開する能力	<p>(1) 批判的思考や分析的方法を活用して、計画的に看護計画を立案できる。</p> <p>(2) 問題解決法を活用し、看護計画を立案し展開できる。</p> <p>(3) 実施した看護実践を評価し、記録できる。</p>	<input type="checkbox"/> 批判的思考、分析的思考、論理的思考 <input type="checkbox"/> 問題解決の過程 <input type="checkbox"/> 看護過程（アセスメント、診断、計画、実施、評価） <input type="checkbox"/> 看護観察とモニタリングの目的と方法 <input type="checkbox"/> 健康に対する人間の反応と看護診断 <input type="checkbox"/> 看護情報の活用と管理 <input type="checkbox"/> 記録の目的と法的意義 <input type="checkbox"/> 記録の監査と評価	<input type="checkbox"/> 看護の現象を批判的思考、論理的思考を活用して捉え説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象が直面している課題を問題解決的思考で捉え説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護過程について理解し、実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象に必要な情報を探索し、看護活動に活用できる。 <input type="checkbox"/> 看護提供の方法を考案し、その中から適切な方法を選択できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象に必要なケアを計画し、指導のもとで実施できる。 <input type="checkbox"/> 実施した看護実践を評価することができる。 <input type="checkbox"/> 看護記録の目的と法的意義について説明できる。

<p>6) 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力</p>	<p>(1) 身体的な健康状態をアセスメントできる。</p> <p>(2) 認知や感情、心理的な健康状態をアセスメントできる。</p> <p>(3) 環境をアセスメントし、健康状態との関係を説明できる。</p> <p>(4) 成長発達に応じた身体的な変化、認知や感情、心理社会的変化を理解したうえで、看護の対象の健康状態をアセスメントできる。</p>	<p><input type="checkbox"/>連続体としての健康</p> <p><input type="checkbox"/>人体の構造（解剖学）</p> <p><input type="checkbox"/>人体の機能（生理学）</p> <p><input type="checkbox"/>病態と生体反応（病理学）</p> <p><input type="checkbox"/>疾病学・診断学</p> <p><input type="checkbox"/>人体の防御システム</p> <p><input type="checkbox"/>疾病と生体の反応（呼吸機能障害、循環機能障害、栄養摂取・代謝障害、咀嚼嚥下・消化吸收障害、内部環境調節・生体防御機能障害、脳神経・感覚機能障害、運動機能障害、排泄機能障害、性・生殖機能障害）</p> <p><input type="checkbox"/>栄養と代謝</p> <p><input type="checkbox"/>精神の機能と健康</p> <p><input type="checkbox"/>人間の欲求と感情</p> <p><input type="checkbox"/>生涯発達と健康課題</p> <p><input type="checkbox"/>性と生殖に関する健康課題</p> <p><input type="checkbox"/>フィジカル・アセスメント</p> <p><input type="checkbox"/>心理社会的アセスメント</p> <p><input type="checkbox"/>人的・物理的環境のアセスメント</p>	<p><input type="checkbox"/>看護に必要な人体の構造と機能について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看護に必要な病態について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>主要な疾病の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>疾病がもたらす機能障害について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看護に必要な栄養と代謝について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>精神の機能・認知・感情のアセスメントの方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>フィジカル・アセスメントの方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>心理社会的アセスメントの方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>人的・物理的環境が健康に及ぼす影響について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>社会資源をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>環境のアセスメントの方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看護の対象の成長発達を踏まえて、指導のもとでフィジカル・アセスメント、心理社会的アセスメント、環境のアセスメントができる。</p>
---	---	---	---

<p>7) 個人と家族の生活をアセスメントする能力</p>	<p>(1) 個人の生活を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる。</p> <p>(2) 家族の生活を把握し、家族員の健康状態との関連をアセスメントできる。</p>	<p><input type="checkbox"/>生活の質</p> <p><input type="checkbox"/>生活と健康</p> <p><input type="checkbox"/>生活と疾病</p> <p><input type="checkbox"/>セルフケア能力</p> <p><input type="checkbox"/>家族機能</p> <p><input type="checkbox"/>家族の生活と健康</p> <p><input type="checkbox"/>家族の生活と疾病</p> <p><input type="checkbox"/>家族のセルフケア能力</p> <p><input type="checkbox"/>家族と地域社会の関係性</p>	<p><input type="checkbox"/>看護の対象を生活している人として捉える意義とその方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>生活と健康障害の関連、疾病・障害が生活に及ぼす影響について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活、療養生活をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>家族の生活と健康障害との関連、疾病・障害が家族生活に及ぼす影響について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>家族全体を捉えてアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>家族と地域社会とのつながりや関係性をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>学校生活、職業生活、社会生活をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活、社会生活、家族の生活について、指導のもとでアセスメントできる。</p>
-------------------------------	---	---	--

<p>8) 地域の特性と健康課題をアセスメントする能力</p>	<p>(1) 地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を把握する方法について説明できる。</p> <p>(2) 学校や職場などの健康課題を把握する方法について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>地域の歴史・文化と生活</p> <p><input type="checkbox"/>地域の環境</p> <p><input type="checkbox"/>地域の社会経済構造</p> <p><input type="checkbox"/>保健医療福祉制度</p> <p><input type="checkbox"/>公衆衛生の概念</p> <p><input type="checkbox"/>地域の健康課題</p> <p><input type="checkbox"/>健康指標の動向（人口動態・疾病構造・受療状況他）</p> <p><input type="checkbox"/>地域の健康に関する情報（母子保健、精神保健、感染症、生活習慣病、がん、難病他）</p> <p><input type="checkbox"/>地域の人々の健康ニーズ</p> <p><input type="checkbox"/>保健行動・疾病対処行動</p> <p><input type="checkbox"/>学校保健</p> <p><input type="checkbox"/>産業保健</p> <p><input type="checkbox"/>社会資源の種類と生活上の問題</p>	<p><input type="checkbox"/>地域の人々の生活、地域の文化、地域の環境、地域の社会経済構造を把握し、地域の特性を捉える方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の人々の健康ニーズや保健行動を捉える方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の保健医療福祉制度、地域の健康に関する情報、健康指標の動向を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>健康診査・診断の結果から健康課題を把握し、健康管理をする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>学校の特性や健康課題を把握する方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>職場の特性や健康課題を把握する方法について説明できる。</p>
<p>9) 看護援助技術を適切に実施する能力</p>	<p>(1) 身体に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p>(2) 情動・認知・行動に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>日常生活援助技術（食事、睡眠、排泄、活動、清潔）</p> <p><input type="checkbox"/>呼吸・循環を整える技術</p> <p><input type="checkbox"/>創傷管理技術</p> <p><input type="checkbox"/>与薬の技術</p> <p><input type="checkbox"/>救命救急処置技術</p> <p><input type="checkbox"/>症状・生体機能管理技術</p> <p><input type="checkbox"/>安楽の技術</p> <p><input type="checkbox"/>感染予防の技術</p>	<p><input type="checkbox"/>日常生活援助の基本技術（食事、睡眠、排泄、活動、清潔）を理解し実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>呼吸・循環を整える基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>創傷管理の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>与薬の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>救命救急処置の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>症状・生体機能管理の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p>

		<p>(3) 人的・物理的環境に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>安全・事故防止の技術</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活習慣の確立に関わる援助技術・セルフケア向上の援助技術</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援の援助技術</p> <p><input type="checkbox"/>療養に関する相談</p> <p><input type="checkbox"/>健康に関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>行動変容を促進する技術</p> <p><input type="checkbox"/>危機介入</p> <p><input type="checkbox"/>人的・物理的環境調整の技術</p> <p><input type="checkbox"/>社会資源の活用</p>	<p><input type="checkbox"/>安楽を援助する基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>感染予防の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>安全・事故防止の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活行動の拡大や生活習慣の確立に向けた援助の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援に向けた援助の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>健康に関する教育、患者教育・家族教育の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>療養生活や健康に関する相談の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>行動変容を促進する援助の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>不安定な感情や情緒を安定させる基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>環境整備や環境調整の基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>生活環境を改善するための基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p> <p><input type="checkbox"/>活用できる社会資源を調整する基本技術を理解し、指導のもとで実施できる。</p>
--	--	--	---	--

看護実践能力		卒業時の到達目標	教育の内容	学習成果
群	能力			
Ⅲ	10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力	<p>(1) 健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。</p> <p>(2) 人の誕生から成長、発達、加齢までの生涯発達の視点を理解し、各発達段階における健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。</p> <p>(3) 妊娠・出産・育児にかかわる看護援助方法について説明できる。</p> <p>(4) 個人特性及び地域特性に対応した健康環境づくりについて説明できる。</p> <p>(5) 健康増進に関連する政策と保健活動について説明できる。</p>	<input type="checkbox"/> ヘルスプロモーション <input type="checkbox"/> 第一次予防、第二次予防、第三次予防 <input type="checkbox"/> プライマリーヘルスケア <input type="checkbox"/> 健康診査と健康教育 <input type="checkbox"/> 妊娠・分娩・産褥の生理 <input type="checkbox"/> 妊婦（ハイリスクを含む）・産婦・褥婦への看護援助方法 <input type="checkbox"/> 胎児・新生児・乳幼児の生理 <input type="checkbox"/> 新生児・乳幼児と家族への看護援助方法 <input type="checkbox"/> 各発達段階の特徴と生活及び健康課題 <input type="checkbox"/> 各発達段階の特徴に応じた看護援助方法 <input type="checkbox"/> 児童期・学童期・思春期にある子どもと家族への看護援助方法 <input type="checkbox"/> 次世代育成に向けた取り組み <input type="checkbox"/> 成人期における健康増進、疾病予防に向けた取り組み <input type="checkbox"/> 加齢に伴う健康課題を抱えた高齢者と家族への看護援助方法 <input type="checkbox"/> 個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進 <input type="checkbox"/> 健康に影響する環境と社会的要因の改善 <input type="checkbox"/> 健康課題に対する地域の組織的な取り組み <input type="checkbox"/> 個人・家族・集団への健康教育・相談 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉計画と看護活動	<input type="checkbox"/> ヘルスプロモーションの考え方について説明できる。 <input type="checkbox"/> 第一次予防、第二次予防、第三次予防の考え方とその方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> プライマリーヘルスケアの考え方とその活動について説明できる。 <input type="checkbox"/> 健康診査とその結果に基づいた健康教育の方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 妊娠・分娩・産褥の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。 <input type="checkbox"/> 妊婦・産婦・褥婦に対する看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 新生児・乳幼児と家族の健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 児童期・学童期・思春期の健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 成人期の健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 加齢に伴う健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 地域の次世代の健康づくりへの取り組みについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 個人・家族・地域のメンタルヘルスを促進する取り組みについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 健康に対する考えやニーズを把握し、健康課題の解決に必要な看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 保健行動、疾病・治療行動を改善するための看護援助方法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 地域の健康的な環境を構築するための組織的な取り組みについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 健康課題の解決に向けた国や自治体の取り組みについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 地域の保健医療福祉計画について理解し、その中で看護職者が担うべき活動・役割について説明できる。

<p>11) 急激な健康破綻と回復過程にある看護の対象を援助する能力</p>	<p>(1) 急激な健康破綻をきたした患者の全身状態をアセスメントし、生命維持に向けた看護援助方法について説明できる。</p> <p>(2) 急激な健康破綻をきたした患者と家族を理解し、回復に向けた看護援助方法について説明できる。</p> <p>(3) 精神的危機状況にある患者の状態をアセスメントし、回復に向けた看護援助方法について説明できる。</p> <p>(4) 必要な早期リハビリテーションを計画し、促進する看護援助方法について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 急激な健康破綻をきたした患者の苦痛・不安</p> <p><input type="checkbox"/> 疾病の診断、検査</p> <p><input type="checkbox"/> 診療に伴う援助技術</p> <p><input type="checkbox"/> 異常の早期発見とアセスメント</p> <p><input type="checkbox"/> 治療法（救命救急、手術療法、薬物療法、放射線療法、精神療法）の種類と効果</p> <p><input type="checkbox"/> 治療を受けている患者への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 救命救急時の処置</p> <p><input type="checkbox"/> 化学療法、放射線療法を受けている患者への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者と家族への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 手術・麻酔による生体反応、合併症の発症と予防</p> <p><input type="checkbox"/> 周手術期にある患者と家族への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 精神機能の著しい低下により混乱状態にある患者と家族への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 精神的危機状態にある患者と家族への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/> 早期回復を促す看護援助方法</p>	<p><input type="checkbox"/> 診療、診断と検査に関する基本的な方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 治療法（救命救急、手術療法、薬物療法、放射線療法、精神療法）の種類と期待される効果について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 治療を受けている患者に対する基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者の疾患・病態・症状について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者に対する治療法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者の全身状態をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者を全人的に捉えて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 重篤な状態にある患者と家族への基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 手術・麻酔による生体反応、合併症の発症と予防について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 周手術期にある患者の全身状態をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 周手術期にある患者と家族への基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 薬物療法を受けている患者と家族に対する看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神機能が著しく低下している患者の精神状態をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神機能が著しく低下している患者に対する治療法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 精神機能が著しく低下している患者と家族への基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 心身の回復過程と回復を促す治療や早期リハビリテーションについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 心身の回復過程にある患者を総合的に理解し、アセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 心身の回復過程にある患者と家族への基本的な看護援助方法について説明できる。</p>
--	--	--	--

<p>12) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する看護の対象を援助する能力</p>	<p>(1) 慢性的な健康課題を有する患者と家族の状態をアセスメントし、疾病管理に向けた看護援助方法について説明できる。</p> <p>(2) 慢性的な健康課題を有する患者と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について説明できる。</p> <p>(3) 慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>慢性疾患の病態と症状</p> <p><input type="checkbox"/>疾病の診断、検査</p> <p><input type="checkbox"/>診療に伴う援助技術</p> <p><input type="checkbox"/>合併症の予防と早期発見</p> <p><input type="checkbox"/>悪化・進行の予防</p> <p><input type="checkbox"/>治療法（薬物療法、放射線療法、精神療法、リハビリテーション）の種類と効果</p> <p><input type="checkbox"/>慢性疾患が生活に及ぼす影響</p> <p><input type="checkbox"/>慢性疾患がライフサイクルに及ぼす影響</p> <p><input type="checkbox"/>自己管理への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/>症状マネジメント、疾病管理</p> <p><input type="checkbox"/>コンプライアンス、アドヒアランス</p> <p><input type="checkbox"/>セルフケア行動の獲得・維持</p> <p><input type="checkbox"/>ストレスコーピング</p> <p><input type="checkbox"/>患者教育・家族教育</p> <p><input type="checkbox"/>障害を持って生きること</p> <p><input type="checkbox"/>サバイバーへの支援</p> <p><input type="checkbox"/>発達障害</p> <p><input type="checkbox"/>リハビリテーション・機能障害の改善</p> <p><input type="checkbox"/>ノーマライゼーション、ソーシャルサポート、社会資源</p> <p><input type="checkbox"/>慢性状態にある患者の家族への援助</p> <p><input type="checkbox"/>患者会、家族会</p>	<p><input type="checkbox"/>主要な慢性疾患の病態とその合併症について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>慢性的な健康課題を有する患者への診療に伴う援助技術について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>慢性的な健康課題を有する患者への治療と効果について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>薬物療法を受けている患者と家族への基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>自己管理、症状マネジメント、疾病管理、コンプライアンス、アドヒアランスについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>慢性的な健康課題がライフサイクルや生活に及ぼす影響を理解し、障害を持って生きることを患者と家族の立場で捉え説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>慢性的な健康課題を有する患者の全身状態を、アセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活、セルフケア能力をアセスメントする方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>慢性的な健康課題を有する患者と家族への基本的な看護援助方法を説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の再構築、適応を促進する基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>ストレスコーピングを促進する基本的な看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>患者教育・家族教育の方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域生活を支援するために、ノーマライゼーション、ソーシャルサポートが重要であることを説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域生活を支援するために、患者会や家族会が担う役割について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域生活を支援するために、ソーシャルサポートの獲得と療養生活の確立に向けての基本的な看護援助方法について説明できる。</p>
---	---	---	---

<p>13) 終末期にある看護の対象を援助する能力</p>	<p>(1) 終末期にある患者を総合的・全人的に理解し、その人らしさを支える看護援助方法について説明できる。</p> <p>(2) 終末期での治療を理解し、苦痛の緩和方法について説明できる。</p> <p>(3) 看取りをする家族の援助について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>終末期にある人の心身の苦痛</p> <p><input type="checkbox"/>緩和ケア</p> <p><input type="checkbox"/>身体機能低下への看護援助方法</p> <p><input type="checkbox"/>終末期の症状緩和</p> <p><input type="checkbox"/>疼痛コントロール</p> <p><input type="checkbox"/>安楽の提供</p> <p><input type="checkbox"/>死の受容過程</p> <p><input type="checkbox"/>悲嘆と受容</p> <p><input type="checkbox"/>スピリチュアルケア</p> <p><input type="checkbox"/>看取る家族への援助</p> <p><input type="checkbox"/>終末期におけるチーム医療</p> <p><input type="checkbox"/>在宅での看取りのための体制づくり</p> <p><input type="checkbox"/>グリーフワーク</p>	<p><input type="checkbox"/>終末期の症状緩和、疼痛コントロール、緩和ケアについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>終末期にある患者の心身の苦痛と看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>身体機能低下をアセスメントし、それに適した安楽を提供する方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>終末期におけるチーム医療の在り方について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>死の受容過程を理解した上で、その人と家族に適した関わりを行うことの必要性について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>生きること、死にゆくことの意味とその過程について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>最期までその人らしさを支援することの必要性について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>死にゆく人の意思を支え、その人らしくあることを援助する方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看取る家族の体験について理解し、看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>在宅での看取りのための体制づくりについて説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>家族の悲嘆過程、グリーフワークについて説明できる。</p>
--------------------------------------	--	---	---

看護実践能力		卒業時の到達目標	教育の内容	学習成果
群	能力			
IV ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	14) 保健医療福祉における看護機能と看護ケアを改善する能力	<p>(1) 保健医療福祉における看護の機能と看護活動の在り方について理解できる。</p> <p>(2) 看護の質の管理及び改善への取り組みについて理解できる。</p>	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉制度と法律 <input type="checkbox"/> 看護の機能 <input type="checkbox"/> 組織論 <input type="checkbox"/> 看護の組織 <input type="checkbox"/> 看護体制 <input type="checkbox"/> 看護ケアのマネジメント <input type="checkbox"/> 看護と経営 <input type="checkbox"/> 情報管理システム <input type="checkbox"/> 看護の質評価 <input type="checkbox"/> 看護の費用対効果 <input type="checkbox"/> 看護活動のPDCAサイクル	<input type="checkbox"/> 保健医療福祉における看護の役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療機関における看護の組織、看護体制、看護の機能について説明できる。 <input type="checkbox"/> 組織の中での役割分担、権限委譲の在り方について理解できる。 <input type="checkbox"/> 保健医療福祉の中での情報管理システムについて理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護の質を評価する必要性とその方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護管理における費用対効果の重要性について理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護活動をPDCAサイクルを用いて改善する意義と方法について理解できる。
	15) 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	<p>(1) 自主グループの育成、地域組織活動の促進について理解できる。</p> <p>(2) 個人・グループ・機関と連携して、地域ケアを構築する方法について理解できる。</p> <p>(3) 地域における健康危機管理及びその対策に関わる看護職の役割について理解できる。</p>	<input type="checkbox"/> 地域ケアに関わる医療政策 <input type="checkbox"/> 集団の形成・発達 <input type="checkbox"/> 自立・自律支援 <input type="checkbox"/> 個人・グループ・機関との調整 <input type="checkbox"/> ケアネットワークづくり <input type="checkbox"/> サポートシステムの構築 <input type="checkbox"/> 地域組織活動 <input type="checkbox"/> 地域ケアの体制づくり <input type="checkbox"/> 健康危機発生時の緊急対応 <input type="checkbox"/> 心的外傷後ストレス障害 <input type="checkbox"/> 災害看護活動 <input type="checkbox"/> 被災者に対する安全な環境	<input type="checkbox"/> 地域で活動する多様な集団やNPOなどの組織、及びそれらの活動について理解できる。 <input type="checkbox"/> ケアのネットワーク、サポートシステムの構築の方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護の対象に必要なケアについて、関連機関や支援者と連携・調整する方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域の健康を促進し、管理する方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 当事者グループの集団の特質や機能について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域における組織や当事者グループを看護専門職者として育成し、支援する意義や方法について理解できる。 <input type="checkbox"/> 地域における日常的な健康危機管理の重要性と看護の活動・役割について理解できる。 <input type="checkbox"/> 健康危機発生後に生じる健康課題と看護活動の在り方について理解できる。 <input type="checkbox"/> 被災者及び被災集団への災害看護活動の在り方について理解できる。

<p>16) 安全なケア環境を提供する能力</p>	<p>(1) 安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について説明できる。</p> <p>(2) 感染防止対策について理解し、必要な行動をとることができる。</p> <p>(3) 医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> リスク・マネジメント</p> <p><input type="checkbox"/> 安全文化の形成</p> <p><input type="checkbox"/> 安全性の基準</p> <p><input type="checkbox"/> 医療事故の現状と課題</p> <p><input type="checkbox"/> 医療安全対策</p> <p><input type="checkbox"/> 医療器具・医薬品管理の安全対策</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止対策</p> <p><input type="checkbox"/> スタンダードプリコーション</p> <p><input type="checkbox"/> 有害事象の予防（転倒・転落などの事故、褥瘡など）</p> <p><input type="checkbox"/> 医療による健康被害（薬害を含む）</p>	<p><input type="checkbox"/> リスク・マネジメント、有害事象（転倒・転落などの事故、褥瘡など）の予防方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療の中で安全文化を形成し、チームとして取り組むことの意義について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療安全対策など医療機関の取り組みと看護の活動・役割について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 安全を脅かす要因、及び医療器具・医薬品の安全な管理、安全な医療環境を形成していく意義について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染防止対策、スタンダードプリコーションについて理解し、実施することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療事故の予防と発生時対応、発生後の分析と評価について説明できる。</p>
----------------------------------	--	--	---

<p>17) 保健医療福祉における協働と連携する能力</p>	<p>(1) チーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、看護の対象を中心とした協働の在り方について説明できる。</p> <p>(2) 保健医療福祉サービスの継続性を保障するためにチーム間の連携について説明できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> チーム医療</p> <p><input type="checkbox"/> 保健医療福祉チーム員の専門性と相互の尊重</p> <p><input type="checkbox"/> チームの中での看護専門職の役割</p> <p><input type="checkbox"/> リーダーシップとフォロワーシップ</p> <p><input type="checkbox"/> アサーション</p> <p><input type="checkbox"/> カンファレンスの運営方法</p> <p><input type="checkbox"/> 情報の共有と守秘義務</p> <p><input type="checkbox"/> 継続看護</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅医療と社会制度</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅医療推進と看護活動</p> <p><input type="checkbox"/> 保健医療福祉機関の連携・協働</p> <p><input type="checkbox"/> ケアマネジメント</p> <p><input type="checkbox"/> 家族を含めた看護の対象中心の連携</p> <p><input type="checkbox"/> 退院支援・退院調整</p> <p><input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの連携</p> <p><input type="checkbox"/> 訪問看護ステーションとの連携</p> <p><input type="checkbox"/> 地域保健・産業保健・学校保健との連携</p>	<p><input type="checkbox"/> チーム医療、保健医療福祉チーム員の機能と専門性、チーム医療の中での看護の役割について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> チーム医療の中での責務として、情報の共有と守秘義務、看護の対象を中心とするチーム医療の構築方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> チーム医療の中での、相互の尊重・連携・協働について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅医療を推進するために、保健医療福祉機関の連携・協働を含めた看護の活動・役割について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> ケアマネジメントやチームの連携方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 継続看護、退院支援・退院調整など、地域の関連機関と協働関係を形成する看護援助方法について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 病院、保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、診療所、学校、職場などとの連携の必要性について説明できる。</p>
--------------------------------	---	---	---

<p>18) 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力</p>	<p>(1) 疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。</p> <p>(2) 社会の変革の方向を理解し、看護を發展させていくことの重要性について説明できる。</p> <p>(3) グローバリゼーション・国際化の動向における看護の在り方について理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/>人口構成と疾病構造</p> <p><input type="checkbox"/>保健医療福祉の歴史と看護</p> <p><input type="checkbox"/>保健医療福祉に関する基本的統計</p> <p><input type="checkbox"/>保健統計や歴史を踏まえた看護の展望</p> <p><input type="checkbox"/>看護行政と看護制度</p> <p><input type="checkbox"/>医療保険制度</p> <p><input type="checkbox"/>診療報酬制度</p> <p><input type="checkbox"/>国際看護活動</p> <p><input type="checkbox"/>グローバリゼーション・国際化の動向</p> <p><input type="checkbox"/>看護職としての發展の方向性</p>	<p><input type="checkbox"/>人口構成と疾病構造、保健医療福祉に関する基本的統計から、健康や保健医療にかかわる課題について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>保健医療福祉制度、保健医療福祉政策の歴史などから、看護の現状と動向を説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>社会政策や看護政策が看護の發展に影響を及ぼしてきたことを説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>保健師助産師看護師法、医療法及び関連する法律と看護実践との関連について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>グローバリゼーション、国際化の中での国際看護活動の意義について理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/>看護職の發展の方向性について自分なりの意見を持つことができる。</p>
--	---	---	--

看護実践能力		卒業時の到達目標	教育の内容	学習成果
群	能力			
V 専門職者として研鑽し続ける基本能力	19) 生涯にわたり専門性を発展させる能力	<p>(1) 日々の自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組む重要性について説明できる。</p> <p>(2) 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理していく重要性について説明できる。</p>	<input type="checkbox"/> リフレクションの方法 <input type="checkbox"/> 自己洞察 <input type="checkbox"/> 役割モデルの活用 <input type="checkbox"/> 批判的分析力 <input type="checkbox"/> 論理的思考 <input type="checkbox"/> 情報リテラシー（情報活用力） <input type="checkbox"/> 研究方法の活用 <input type="checkbox"/> キャリアマネジメント <input type="checkbox"/> 生涯学習とその機会 <input type="checkbox"/> 自己教育力	<input type="checkbox"/> 自己の看護の向上に向けて、看護の振り返りや自己洞察の重要性について説明できる。 <input type="checkbox"/> 専門職としての成長に必要な批判的分析力、論理的思考力の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護の課題を解決するために、情報リテラシー（情報活用力）を活用することができる。 <input type="checkbox"/> 専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 専門職としての自己管理や自己主張の意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 長期的展望に立ち自己学習計画をもつ意義について説明できる。 <input type="checkbox"/> 自己学習や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。
	20) 看護専門職としての価値と専門性を発展させる能力	<p>(1) 看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる。</p>	<input type="checkbox"/> 看護の定義とその歴史 <input type="checkbox"/> 看護学の歴史と発展過程 <input type="checkbox"/> 医療の歴史 <input type="checkbox"/> プロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 看護職能団体とその活用 <input type="checkbox"/> 看護政策 <input type="checkbox"/> 保健師助産師看護師法 <input type="checkbox"/> 看護実践の範囲・資格・法律 <input type="checkbox"/> 看護実践と研究の連動と発展	<input type="checkbox"/> 科学の発展や社会の動向から影響を受けて、看護学が発展してきたことについて説明できる。 <input type="checkbox"/> 看護実践と看護研究の連動を理解し、研究が看護学の発展に果たす役割について説明できる。 <input type="checkbox"/> 社会政策や看護政策が看護学の発展に影響を及ぼしてきたことについて理解できる。 <input type="checkbox"/> 看護の専門性や価値について、自分なりの意見を持つことができる。 <input type="checkbox"/> さらに発展が求められる看護の専門性について、自分なりの意見を持つことができる。